

外傷学各論		講義	教授 千明 政好
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13371302

1. 授業のねらい・概要

外傷学について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態を外傷部位ごとに解説し系統的な理解をはかる。救命することができる外傷死を減らすための観察・処置判断・について解説し、搬送先の選定を具体的に実施できるような外傷学の知識を身につける。外傷学総論と相互に関連する外傷対応の具体的知識を身につける。

2. 授業の進め方

参加型授業を提案し、双方向的な授業を実現できるようにする。前週に実施した授業を確実に理解することとする。理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに、学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	外傷の病態生理 循環動態, ショックなど	講義	千明政好
2	胸部外傷①肺損傷, 血胸, フレイルチェストなど	講義	千明
3	胸部外傷②TAFXXX: 心タンポナーデ, 緊張性気胸など	講義	千明
4	頭部外傷①急性硬膜外血腫, 急性硬膜下血など	講義	千明
5	頭部外傷②外傷性くも膜下出血, びまん性脳損傷など	講義	千明
6	顔面・頸部外傷・縊首・絞頸	講義	千明
7	脊椎・脊髄外傷 脊髄ショック, 呼吸筋麻痺など	講義	千明
8	小試験 1 回目および 腹部外傷など	講義	千明
9	腹腔内出血, 消化管損傷, 骨盤外傷 骨盤骨折など	講義	千明
10	四肢外傷・皮膚・軟部組織外傷 骨折・クラッシュ症候群など	講義	千明
11	小児・高齢者・妊婦の特徴と主な外傷	講義	千明
12	熱傷 (電撃症) 皮膚熱傷・気道熱傷など	講義	千明
13	化学損傷 酸・アルカリ損傷など	講義	千明
14	刺咬傷 哺乳類, 爬虫類, ハチなど	講義	千明
15	1 回～14 回までのまとめ 小試験 2 回目	講義	千明

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習 (必要時間: 約 60 分)

授業計画を参考に, 該当授業箇所について予習すること。

2) 復習 (必要時間: 約 60 分)

テキストの授業該当箇所と配布資料などをもとに復習し理解を深めること。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

1) 筆記試験

小試験 2 回, 期末試験 1 回, 各試験実施直後に解答と解説を行う。

2) 課題

毎回授業の初めに 15 分程度の予習を課す。すべての項目を記入し提出すること。

6. 授業における学修の到達目標

予防できる外傷死を減らすための観察・処置判断・について学習し、具体的に実施できるような以下の能力を修得できることを目的とする。

到達目標

- 1) 救急救命士に係る病院前外傷医療体制を理解できる。
- 2) 外傷死を減らすための救急救命士の観察・処置・判断を理解できる。
- 3) 頭部から足のつまさきまで各部の外傷を解剖学的・生理学的な側面から理解できる。
- 4) 熱傷・放射線損傷・化学損傷・電撃症などの観察・処置・判断を理解できる。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の方法

筆記試験 (100 %)

- イ) 小テスト2回 (50 %)・期末試験 (50 %)
- ロ) 合計点数の 60%以上を合格とする。
- ハ) 再試験は実施しない。
- ニ) 受験資格として 3 分の 2 以上の出席かつ、全ての課題が提出されていること。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2020.

JPTEC 協議会編著：改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022.

適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

授業時間中はスマートフォン使用禁止、イヤホン使用禁止、帽子着用禁止とする。従わない場合は退室させ欠席扱いとする。授業中にもかかわらず学生同士の会話等がひどい場合は授業妨害と判断し退出させ欠席扱いとする。

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、大学病院救命救急センターや集中治療室等における 20 年以上の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。